27.3.31
佐倉市 教育センターだより Vol.35
平成27年3月31日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486)2400　http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0-0_6.html

コンシェルジュに学ぶ

佐倉市教育センター所長　真　下　　誠

今回は，本年2月16日（月）にNHK総合で放送された「プロフェッショナル　仕事の流儀」を観て，私なりに考えたこと，感じたことを話してみたいと思います。「プロフェッショナル　仕事の流儀」は，その道のプロを取り上げ，そのプロの発想や仕事ぶりを徹底した現場密着ドキュメントで描いていく番組です。読者の中には，この番組を見ている方も多くいると推察しています。

さて，私が観た回は，ホテルの宿泊客のあらゆる要望に対応する職務を担う，「コンシェルジュ」の仕事を取り上げたものでした。一流コンシェルジュであり，チームリーダーの阿部佳さんにスポットをあて番組は進んでいきます。私はこの番組に引き込まれ，あっという間にエンディングをむかえた感がありました。そして，コンシェルジュの仕事は教員のそれに相通じるものがあり，とても参考になることが多いように思えました。

一つ目は，阿部さんは，真摯に接客している部下に対して，「仕事が雑！」と一喝する場面がありました。接客のスピードや技術が高いだけでは，プロのコンシェルジュとは言えない。マニュアル通りに対処するのではなく，お客と話をする過程で，相手の表情や微妙な変化を徹底的に観察し，言葉に隠された真意を汲み取ることが真の接客だと説いています。教員に置き換えた場合，子供が「おなかが痛い」と訴えてきたとき，マニュアル通り「保健室で診てもらいましょう」ではなく，話をしながら観察し，言葉の裏に隠された，例えば友達とけんかをして気が滅入っている，図書室で借りた本をなくしてしまった，という真の原因を見出していくことがプロの教員であるといえます。単なる腹痛だったかもしれませんが，隠されているかもしれない真意を汲み取ろうとする意識をもって接するのがプロの教員といえるのでしょう。

二つ目は，相手のことを知ろうとするならば，相手の話をたくさん聴くということです。阿部さんは，お客さんの真意を汲み取る過程で，「はい」「いいえ」では答えられない質問をし，多くを語らせていました。私は学校現場で教壇に立っていたとき，子供の話に傾聴することが少なく，ややもすれば「だからこうでしょ，ああでしょ」とはやしたて，価値を押し付けてしまうこともありました。今思うと反省しきりといった感です。相手に十分に語らせる，話をさせる，そんな意識を強く持っていれば，その子供の真意が汲み取れていたかもしれません。

学校の先生方，保護者の皆様方，地域の皆様方など大人の方が，子供と接する際にはいっぱい話をさせ，丁寧に子供を観察していただけると，子供の真意にたどり着けるかもしれません。真意にたどり着いたとき一番救われるのは子供です。ぜひ，そんな意識を持っていただければ幸いです。

蛇足になりますが，阿部佳さんは活字中毒で，自宅には五千冊を超える本があるそうです。通勤途上，本を読み切ってしまいパニックになりそうだったというエピソードを聴き，何だかとても親近感を持ちました。

今回の号は，本年1月27日（火）に開催しました「佐倉市教育センター等報告会」の特集を掲載します。学校現場等で活用していただければ幸いに思います。

本年度，センターの事業にご理解・ご協力いただきありがとうございました。佐倉の子供たちが健やかに成長していけるよう，来年度も所員一丸となり，職務遂行に邁進してまいります。

特集　「平成26年度佐倉市教育センター等報告会」から

佐倉市教育センター等報告会は，佐倉教育の日の関連事業として毎年実施しているもので，本年度で11回目の開催となります。今回のセンターだよりでは，佐倉市教育センター等報告会での報告内容を特集として紹介いたします。

【主催者挨拶　茅野達也教育長】

教育センターは，調査研究・就学相談・教育相談・特別支援教育等の業務に取り組むとともに，その他教育の充実及び振興を図ることを目的に平成15年に開所いたしました。今年度は，センターの各指導主事が取り組んだ事業の報告がなされます。本日報告された内容を各学校に持ち帰り，実態に合った積極的な活用をお願いいたします。さらに，佐倉市の教育がより一層充実したものとなるようお願いいたします。

【第１報告】インクルーシブ教育システム構築モデル事業

研究２年目の取組を，インクルーシブ教育システムの構築で目指す２つの視点で報告します。

１　障害のある子供とない子供が可能な限り同じ場で学ぶこと

（１）教職員の専門性向上と地域資源との活用

- 言語通級指導教室担当者が「ことばの教室ガイド」を活用した出前講座を実施した。
- 特別支援教育担当者会議，言語教育研修会，特別支援学級担任研修会，特別支援教育支援員研修会で，専門性の高い地域人材や地域施設の活用を図り，連携を図った。

（２）子供同士の相互理解

- 千葉聾学校，千葉盲学校，市内言語通級指導教室担当者による「聞こえにくさ」「見えにくさ」をテーマにした理解啓発授業を実施した。

２　授業内容が分かり，充実した時間を過ごしつつ，生きる力を身につけていくこと

Ａ小学校の児童が特別支援学校で支援を受けている様子

（１）人材活用による支援

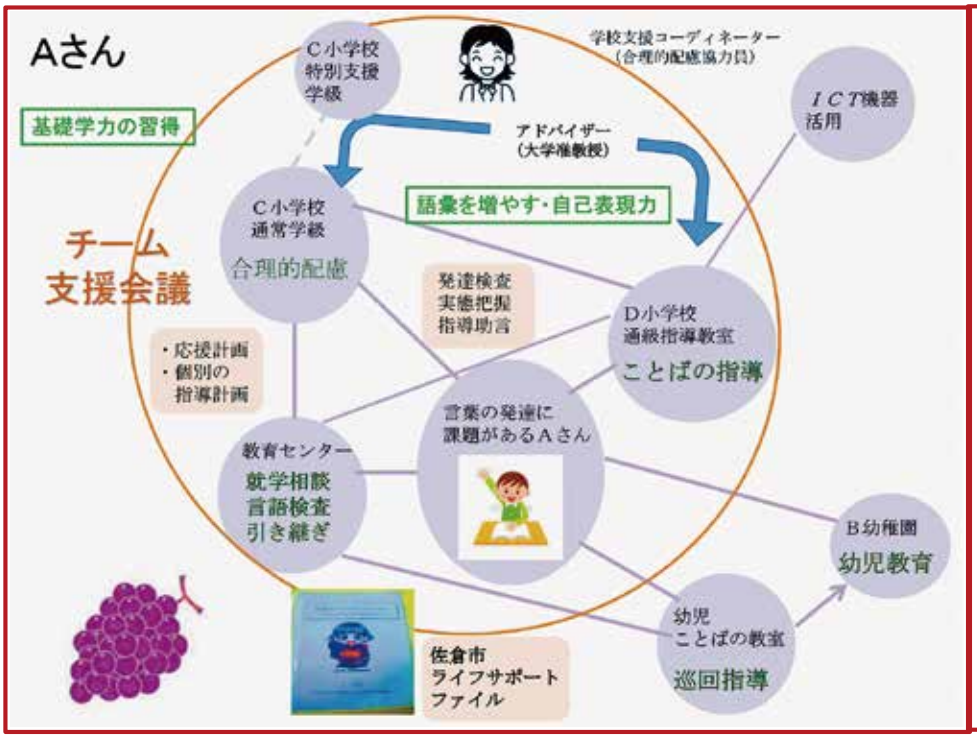
- 研究拠点校となっている小学校４校に「学校支援コーディネーター」を配置し，通級指導教室，在籍学級それぞれの学びの場における適切な指導・支援を調整した。
- 特別支援学校の通級指導やセンター的機能を活用し，障害の状態に応じた適切な支援や，指導への助言をいただいた。

（２）タブレット端末の活用

- 授業時に，「正しい音づくり」「視覚的補助」「作業手順の確認」「学習アプリの活用」など，児童の学習を補助する教材として効果的な活用を図った。
- 指導者間が連絡を取り合い，指導の進め方を共通理解する通信手段として効果的に活用した。

事例紹介

【スクールクラスターによる支援】



- Ａさんは，言葉の面での困難さについて就学前に発見されました。
↓
- 教育センターで相談を受け実態を把握し，小学校につなげました。
↓
- Ｃ小学校では通常の学級で学び，Ｄ小学校の言葉の教室に通級し，ことばの指導を受けています。
↓
- 両校の間を学校支援コーディネーターが調整し，両担任・保護者が課題や手だてについて，共通理解を図りました。

Ａさんの成長に伴い，関わる資源は変化したり，増えたりします。それぞれの「今必要な資源」が適切につながっていくことがスクールクラスターでは重要です。Ａさんは明るい表情で生活し，学習にも意欲的に取り組んでいます。Ａさんの支援に複数の担当が共通理解して取り組んだことは保護者の安心にもつながりました。

【第２報告】適応指導教室の取組と学力向上の視点から取り組む若年層研修

1　適応指導教室の取組

佐倉市適応指導教室は集団等に適応することが難しい子供たちの居場所であることや絆を深める関係づくりの場として，学校復帰支援の一助となるようその役割を担っています。そこで，教育センターが取り組んでいる「不登校相談ネットワークづくりの構築」について報告します。

不登校相談ネットワークづくりの構築

【手だて①学校・保護者・センターのネットワークづくり】

○指導主事・相談員による当該校への学校訪問
　※年間2回実施
○個別の応援計画の作成による支援
○希望する保護者と相談員の面談
　※年間2回実施
○毎月の相談員会議による共通理解

【手だて②子供のネットワークづくり】

○毎月1回の校外学習活動の実施
※第2または第4月曜日実施
　・市内めぐり・市外校外学習・調理実習
　・草ぶえの丘での収穫活動
○毎月の創作活動
　・活動を通した触れ合いの場づくり

【糸川相談員からの報告】

適応指導教室では，様々な課題を抱えた児童生徒が通級しています。その中で，ある男子生徒は昨年度の校外学習で劇的に変化しました。理由は，友達とサッカーをしたことでした。これまでも教室内で触れ合う場はありましたが，校外でのこうした活動が彼にとって良い影響を及ぼしたと思います。この後，表情がとっても柔らかくなり，お弁当もみんなで食べるなど交流が活発になりました。校外学習活動は子供たちにとって，よい効果をもたらす活動だと思います。

2　学力向上の視点から取り組む若年層研修

平成25年度の佐倉市の若年層と呼ばれる年代層（経験年数5年目以下）の職員数は，111名でした。これは，教諭層全体の856名に対し約13%を占めています。

今後，教職員の力量向上を目指す研修は，ますます重要になってくると考えます。このような実態をふまえ，連携して取り組んだ南部中学校と王子台小学校での取組について報告いたします。

【実践①南部中学校】　数学科を中心とした授業力の向上の取組

取組①生徒一人一人の活躍の場を位置付けた授業展開

・どこでもシートの活用（復習問題の解答提示，課題解決の提示に活用）

取組②学び合いの場を位置づけた授業

・グループ学習による課題解決

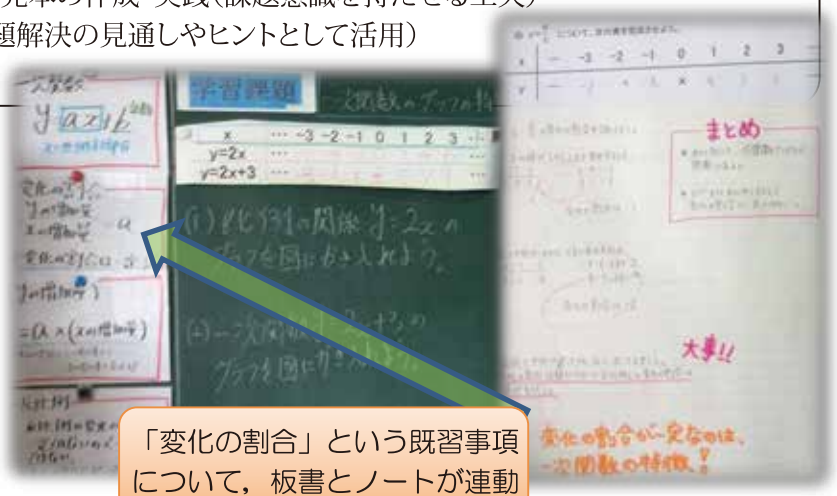
取組③板書計画とノート指導

・数学科授業での板書計画見本の作成・実践（課題意識を持たせる工夫）

・既習事項の資料提示（課題解決の見通しやヒントとして活用）

・板書とノート指導の連動

グループ学習による課題解決を位置付け，取り組んでいる場面



「変化の割合」という既習事項について，板書とノートが連動

【実践②王子台小学校】授業実践を中心とした授業力の向上の取組

取組①主体的となるような研修スタイルの展開

・付箋を使って，各自の考えやアイデアを記入

・分類・整理→関連付け→集約→実践する課題の設定

・授業での取組や学級経営等，様々な研修テーマの設定

取組②テーマを設定して取組む授業実践

・様々な教科（国語，算数，理科，音楽，書写，道徳等）による授業実践

・学び合いの場の位置付け，ホワイトボードの活用，導入の工夫

・月1回の授業実践→反省・協議→次回の課題設定→実践というサイクルによる取組

授業実践「音楽」

・曲想について，グループで話し合い，ホワイトボードでイメージを共有化する活動

授業実践へ

テーマ「授業における学び合い」

①付箋を用いて，アイデアを引き出していく

②分類・整理→関連付け→集約していく

③「学び合いの場に意見を集約するボードを活用」という課題を設定し，授業実践・検証をしていく

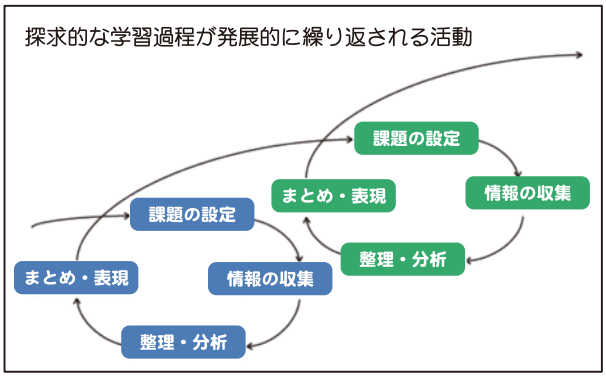
授業実践「理科」

・電気を通す物質について，グループで実験を行い，結果をボードにまとめ，考察していく活動

【第３報告】佐倉学の実践をもとに『探究的に学ぶ』『協同的な学習』の具体的な事例

１　『探究的に学ぶ』，『協同的な学習』とは

４月に配付しました佐倉学のリーフレットには，佐倉学を探究的に学ぶとあります。**探究とは**問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動のことです。図に表すと右図のようなイメージになります。まず**課題の設定**を行い，課題に対する**情報の収集**をして，収集した情報を**整理・分析**したことを，**まとめ・表現**する学習活動の流れで１つのサイクルになります。このサイクルを経ていく中で，さらに自らの課題を見出し，スパイラルに展開していくことで，児童生徒が能動的に学ぶようにしていきます。



また，探究を支える活動として，友達や地域の方，専門家等の様々な人と関わりながら学ぶ**協同的な学習**を取り入れていくこととしました。

２　実践　佐倉東小学校３年生の取組　「東小じまんカルタをつくろう」

ここでは，探究的な学びの過程の１サイクルを紹介します。子供たちは探究的に学ぶことで，自らの課題を解決するため能動的に学ぶ姿が見られました。また，地域への愛着を持ち，さらには保護者へ地域の良さを発信することもできました。

１　課題の設定　　**◆人に直接かかわる体験活動から課題設定をしました。**

まず，学習の導入として道徳の授業で『佐倉こどもかるた子都手留会』の方にカルタに込めた郷土への思いを話してもらいました。
次に，子都手留会のカルタを体験し，自分たちも「東小カルタをつくろう」という課題を持たせました。

２　情報収集　　**◆課題解決のために目的をもって情報を収集しました。**

社会科の学習で学校のまわりを歩いたことから，カルタにできる素材を集めていきました。

３　整理・分析　　**◆明確に考える視点を持たせ，集めた資料を整理・分析しました。**

各自，読み句に入れたい言葉をいくつか考えさせ，「東小の良さが伝わるかどうか」「絵に表しやすいかどうか」という視点で，互いに検討させました。

４　まとめ・表現　　**◆話し合ったことをもとに，読み句を考え読ました。**

再び『佐倉こどもかるた子都手留会』の方に来ていただき，個々に考えた読み句に対して助言をもらいました。

完成したカルタで，保護者と一緒にカルタ大会を開きました。保護者から「カルタを通して，地域の良さに改めて気づいた」という感想がありました。

ユニバーサルデザインって・・・？

近年,「ユニバーサルデザイン」という言葉を耳にする機会が増えてきました。ユニバーサルデザインとは「年齢, 性別, 能力などにかかわらず, より多くの人々にとって使いやすい製品, サービス, そして環境をつくる」という考え方です。

また, 国内外での法令化や規格化が進み, 製品にユニバーサルデザインへの配慮が盛り込まれることも増えてきました。このような社会的ニーズが高まる中で, ユニバーサルデザインは重要な役割を果たすようになってきています。

そのユニバーサルデザインによる世の中での暮らしやすさの工夫を学校生活の中に置き換えていくと, どの子供にとっても「わかりやすい授業, わかりやすい学級経営」に繋がっていくものと考えられます。

例えば・・・

①ゆっくり, 端的に話したり, 説明したりする。
②めあてを明確にする。
③絵や図, 実物, 具体物などの視覚的な教材を活用する。(学習の流れ, 手順)
④学習内容を複雑にせず焦点化する。
⑤一つずつ指示をする。
⑥発問を精選する。

人間は情報の８０％(自閉傾向の人は, ９０～９５％)を視覚的な情報に頼っていると言われています。視覚的に情報を与えることによって得られる効果は, 理解しやすさに反映されると言われています。ここでは, 染井野小学校における視覚に配慮した取組をご紹介いたします。

〔発表シート〕
発表用シートの並べ方や, 説明文に写真を添えることにより, 相手に伝わりやすくなる工夫しています。

〔ＩＣＴの活用〕
ＩＣＴ機器により, 映像の効果を活用しています。

〔学習手順〕
黒板の左上には, 学習の手順表が示され, １時間の見通しが持てるよう工夫されています。

その他にも・・・
・指示はゆっくり端的　・キーワードをホワイトボードに明記
・作業の終わりを示すタイムタイマーの使用　等

ユニバーサルデザインの要素を学習活動で取り入れることが, わかりやすさにつながっています。

編集後記

今回は,「佐倉市教育センター等報告会」を特集しました。各学校の貴重な実践例をきっかけに, 情報交換を通した互いの高め合いができるよう願っています。佐倉市の教育力向上の一助となるよう, 佐倉市教育センターは, 今後も努力してまいります。